

没後20年
記念企画

平成二十四年度 志布志市自主文化事業

ふりさととる愛した俳人

藤後左右展



～藤後左右の生涯～

鹿児島県志布志市出身の俳人・藤後左右（本名・惣兵衛）が1991年（平成3年）6月11日に亡くなってから20余年が経過しています。

藤後左右は、1908年（明治41年）に鹿児島県曾於郡志布志町（現志布志市）に生まれ、旧制志布志中学校より第七高等学校を経て京都帝国大学医学部に入学、この頃より俳句を志します。

わずか2年後には、高浜虚子の俳誌「ホトトギス」の巻頭を飾り、無名の医学生が、当時の日本を代表する俳人たちをおしのけ、一席に掲載され昭和初期の俳壇で一躍脚光を浴び、東（東大）の（中村）草田男、西（京大）の左右と並び称されました。その後、「五・七・五」の定型に疑問を持ち始め、大学卒業後は、平畑静塔、井上白文地、中村三山らとともに「京大俳句」を創刊し、俳句の世界に自由で独創的な風を吹き込みますが、やがて医学の道に専念しました。

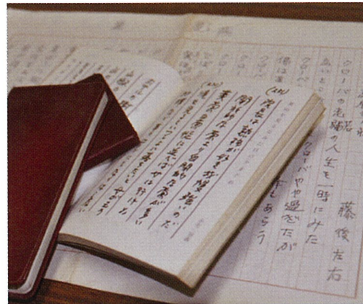
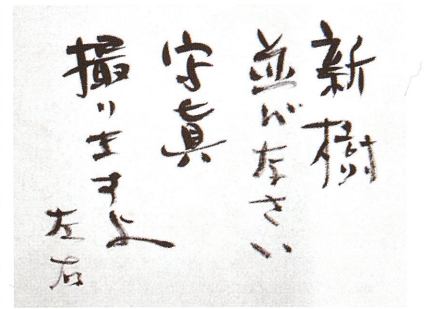
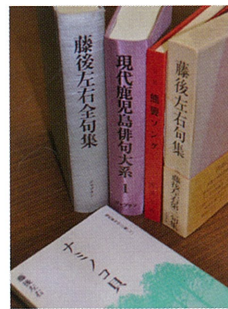
その後、京都市立病院などで医師として働き、太平洋戦争時は、インドネシアなどで軍医として、野戦病院に勤務しました。

2012年

11月24日（土）～12月9日（日）

午前10時～午後6時 入場無料
（11月24日（土）のみ午後1時～）

志布志市文化会館（月曜休館）



戦後は、郷里志布志に帰り、内科・精神科の医療法人「左右会」の理事長として地域医療に尽くすと共に、町の教育委員長、文化協会会長、母校（現志布志高校）の松蔭会長等の公職を歴任しました。

また、晩年は志布志湾公害反対運動のリーダーとして、生まれ育った志布志の海と松原を愛し、自然を守るための活動を展開しました。公害反対運動に「藤後惣兵衛」として熱心に取り組む一方で、「俳人藤後左右」は片時も句作を忘れず、「五・七・五」や「有季定型」にこだわらない自由な口語の「自分らしい俳句」の世界を作り上げていきました。

本展では、俳人・藤後左右の生涯を振り返りながら、左右俳句の魅力と趣味として収集した古美術品などを紹介いたします。

主催：志布志市 志布志市教育委員会

後援：志布志市文化協会連絡協議会 鹿児島県現代俳句協会

鹿児島県詩人協会 南日本新聞社

協力：志布志左右句会 天街俳句会 医療法人左右会

社会福祉法人橋友会 FM志布志 BTVケーブルテレビ(株)

問い合わせ：志布志市教育委員会生涯学習課 099-472-1111

関連事業 特別講演会「藤後左右を語る」

講師：金子兜太（俳人、現代俳句協会名誉会長、日本芸術院会員）

11月24日（土）午前10時 志布志市文化会館 ※入場無料